片柳榮一名誉教授

略年譜

一九四四(昭和十九)年七月十三日　栃木県に生
一九六三年三月　栃木県立足利高等学校卒業
一九六三年四月　京都大学文学部入学
一九六七年三月　京都大学文学部哲学科基督教学卒業
一九六七年四月　京都大学大学院文学研究科修士課程基督教学専攻入学
一九六九年四月　京都大学大学院文学研究科博士課程基督教学専攻進学
一九七二年三月　右単位取得退学
一九七二年四月　日本学術振興会奨励研究員
一九七三年十月　ドイツ学術交換奉仕会（ＤＡＡＤ）留学生としてドイツ連邦共和国エルランゲン大学にて哲学、神学を学ぶ（一九七六年三月まで）
一九七六年四月　関西学院大学商学部専任講師（ドイツ語）
一九八〇年四月　関西学院大学商学部助教授（ドイツ語）
一九八七年四月　神戸大学教養部助教授（倫理学）
一九八九年四月　神戸大学教養部教授（倫理学）
一九九二年四月　神戸大学国際文化学部教授（行為規範論）
一九九九年四月　京都大学大学院文学研究科教授（キリスト教学）
二〇〇八年三月　京都大学大学院文学研究科定年退職、京都大学名誉教授

業績目録

著書

一九九五　『初期アウグスティヌス哲学の形成――第一の探究する自由』創文社

論文

一九七八　「第一の探究する自由」『中世思想研究』第二十号、四七―六五頁
"Worin besteht der Unterschied der Augustinaufassung zwischen A. von Harnack und K. Holl?" 『関西学院大学欧文紀要』XXVII, p.19-33
一九七九　「若きヘーゲルにおける〈民族宗教〉の理想とキリスト教の実定性(1)」『関西学院大学論攷』第三十九号、四七―六四頁
「若きヘーゲルにおける〈民族宗教〉の理想とキリスト教の実定性(2)」『関西学院大学論攷』第四十二号、七五―九九頁
一九八〇　「アウグスティヌスとマニ教」『商学論究』第二十七記念号、六四一―六六〇頁
「Jesus patibilis」『中世思想研究』第二十二号、二五―

四七頁
「絶対の相の下に――若きアウグスティヌスと悪の問題」『基督教学研究』第三号、六九―九七頁
一九八一「若きヘーゲルにおける〈民族宗教〉の理想とキリスト教の実定性(3)」『関西学院大学論攷』第四十五号、二七―四九頁
一九八二「コリングウッドと歴史の哲学」『商学論究』第二十九記念号、七一七―七三七頁
一九八三「創造における conversio」『中世思想研究』第二十五号、五九―七九頁
「アウグスティヌスの時間論」『基督教学研究』第六号、一三五―一五五頁
一九八四「Imago Dei としての精神の自覚の三一的構造」『基督教学研究』第七号、二八―四九頁
一九八五「ハイデッガーとカント――Transzendenz の問題をめぐって」『関西学院大学論攷』第五九号、一―二〇頁
「時間空間論の展開」『新岩波講座　哲学』第七巻、六八―九六頁
"Das Eine als das Erwachen"『関西学院大学欧文紀要』XXXIV, p.23-30
一九八七"Die erste Freiheit des Suchens-prima quaerendi libertas――Augustin in Cassiciacum", Studia ephemeridis 〈Augustinianum〉 25, p.372-379
一九八八「哲学と宗教」『ヘーゲル哲学の現在』世界思想社、二六二―二七五頁
一九八九「相応しい呼びかけ congrua vocatio について――アウグスティヌスの恩恵論の核心」『神戸大学教養部紀要　論集』第四十三号、一―二二頁
「自由をめぐる生と思索――アウグスティヌスとトマス・アクィナスの場合」『変革期の思索』ミネルヴァ書房、一九―三六頁
一九九一"The last congruous vocation", Collectanea Augustiniana, Institut historique Augustinien, Louven, p.371-379
一九九二「知と疑と信」『中世思想研究』第三十四号、四五―六二頁
一九九三「アウグスティヌスの〈ホルテンシウス体験〉と〈知恵の探究〉への決意」『中世哲学研究』第十二号、四九―六〇頁
一九九五「超越 Transzendenz 問題とカントの純粋悟性概念の超越論的演繹」『近代』神戸大学近代発行会、第七十八号、九一―一〇八頁
一九九六「二つの恩恵――アウグスティヌス『譴責と恩恵』十―十二章」『基督教学研究』第十六号、八七―一〇九頁
一九九六「叡知界に留まる魂――魂の本来性をめぐるプロティヌスの議論」『人間存在論』第三号、四六五―四

七五頁
一九九七　「残された二つの脱自的――地平的図式――一九二七年夏のハイデガー」『近代』、神戸大学近代発行会、一五一―一六八頁
一九九八　「この世界への、この世界からの超出――ハンナ・アーレントのアウグスティヌス解釈」『基督教学研究』第十八号、九五―一一四頁
「時と永遠――波多野精一」『日本の哲学を学ぶ人のために』（常俊宗三郎編、世界思想社、二五七―二八六頁
一九九九　「超越の解明――ハイデガーのカント解釈について」『神戸大学大学院文化学研究科　文化学年報』第十八号、六七―一〇四頁
二〇〇〇　「アウグスティヌスのコギト」『哲学研究』第五七〇号、二〇―五二頁
二〇〇二　「人間の内の恒久なるもの――アウグスティヌスの〈神の似像〉理解」『基督教学研究』第二十二号、一―二〇頁
二〇〇三　「変化の自己化としての時間――アウグスティヌスの時間論の再検討」『人間存在論』第十五号、一一三―一二二頁
「アウグスティヌスの時間論の形而上学的背景についての一考察」『中世思想研究』第四十五号、二三―四〇頁
二〇〇四　「同一性と差異性との新たな理解を求めて――コリングウッドの歴史理解を通して」『京都大学大学院文学研究科21世紀ＣＯＥプログラム――グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成――第二回報告書Ⅲ』、一六三―一八〇頁
二〇〇五　「超越論的統覚とコギト――アウグスティヌスの視点から」『京都学派の伝統とカント――カント没後二〇〇年記念学会公開講演シンポジウム』、八四―一〇四頁
「存在と存在の彼方」『哲学は何を問うべきか』（竹市明弘・小浜善信編著）晃洋書房、三―二一頁
「アウグスティヌスの〈知ある無知 docta ignorantia〉」『基督教学研究』第二十五号、一―一九頁
二〇〇六　「ボサンケと西田幾多郎」『西田哲学年報』第三号、七一―八五頁
「アウグスティヌスと西田幾多郎」『日本哲学史研究』第三号、一―二六頁
二〇〇七　「アウグスティヌスにおける探究の論理」『ディアロゴス――手探りの中の対話』片柳榮一編著、晃洋書房、一九―三五頁
「現代世界の多元性と対話の可能性」『グローバル化時代の人文学――対話と寛容の知を求めて』（紀平栄作編）京都大学学術出版会、三六五―三八九頁